

第12回 本部通常総会・記念講演会のお知らせ

日時：6月21日（金）午後1時30分受付、午後2時00分開会

場所：湘南鎌倉クリスタルホテル

次第：〈記念講演会〉午後2時00分～午後3時45分

〈総会〉午後4時00分～午後5時15分

〈懇談会〉午後5時30分～午後7時00分

講師：太田昌克氏〈共同通信編集委員〉

演題：揺れる国際秩序 米大統領選と世界の危機

会費：4,000円（懇談会会費） ※講演会、総会は無料



太田昌克氏

医療百話

湘南藤沢徳洲会病院
肝胆膵・消化器病センター センター長
岩淵 省吾



お腹の病気の内容や治療も変化

●肝胆膵・消化器病センター開設から10年

湘南藤沢徳洲会病院に肝胆膵・消化器病センターが開設して10年が経ちました。当センターでは肝臓・胆道・膵臓・胃腸の病気、つまりお腹の病気全般にわたり内科系外科系を問わず、その分野の専門医が集まり治療をおこなってきました。

現在も内科、外科、内視鏡、化学療法、カテーテル治療、画像診断、放射線治療などの専門医によるミーティングを毎週おこない、それぞれの患者さんに最も適した治療法などを話し合っています。

●撲滅されつつあるC型肝炎

肝臓病は、C型肝炎の治療薬が開発され、飲み薬を2～3ヶ月服用するだけで100%近くC型肝炎ウイルス(HCV)が消えるようになりました。以前にC型肝炎と言われインターフェロン治療をおこなったが辛くて止めた方や肝炎を起こしていないから治療しなかった方、さらに何らかの機会にHCVの感染を指摘された方も簡単に治る時代になったのです。以前にC型肝炎で治った方も最低、年1回のチェックは必要なのでご相談下さい。

C型肝炎が撲滅に向うなかで、肥満や糖尿病に関連した脂肪肝やアルコール性の肝臓病が増えつつあります。とくに脂肪肝のなかでも脂肪性肝炎では肝臓に線維化が起こり、徐々に肝臓が硬くなり肝硬変にまで進行することがあります。肝硬変に

近い状態になると肝臓がんも出来やすくなり、気付いた時には大きな肝臓がんという方も散見されます。

以前はC型肝炎、最近はこの脂肪性肝炎ないし飲酒、糖尿病が肝臓がんの原因として浮上しています。肝臓病は進行するまで症状が表れないので、他の病気で通院中に偶然発見されたり、人間ドックで指摘されることもあります。人間ドックは通常の健診では含まれない腹部超音波検査がおこなわれるため、2～3年に1回程度の受診がお勧めです。

●高齢化に伴い胆嚢や胆管、膵臓の病気は増加

胆嚢や胆管、膵臓の病気も年々増えています。とくに肝臓で作られた胆汁が腸まで流れ出る経路を胆道系といいます。この胆道系の砂や石による炎症、がん、さらには膵臓がんも増えています。胆道系の病気の症状としては、みぞおち(心窩部)の痛みや発熱、食欲不振などが表れますが、全く自覚症状が無く、尿が異常に濃くなったり、黄疸で気付くこともあります。

この胆道系の検査や治療に、内視鏡を使い十二指腸の胆管の出口(乳頭部)から細い管を通す、内視鏡的膵胆管造影(ERCP)がおこなわれます。このERCPを用いて胆道系の診断と場合によっては胆石を砕いたり除去することもあります。

ERCPは毎日のおこなわれ、その数もセンター開設当初の数倍に増えています。なぜ胆道系の病気が増えてきたのでしょうか。団塊の世代も70歳後半にかかり、日本人の高齢化に伴って胆汁の流れが停滞することが原因かも知れません。これに関連して、最近では元気なお年寄りも多く、80歳半ばから90歳を過ぎてもお腹の病気の手術をされることがあります。勿論ご本人の意思、意欲が優先されますが、医療材料や技術の進歩により手術可能年齢もかなり高齢化してきました。

ご相談いただければ、当センターはスタッフ一同、患者さんの年齢や体力に応じた医療を心掛けて対応させていただきます。